

キーワード

基礎的な知識・技能の習得

標 題

児童の確かな学力向上に向けて
～説明力を伸ばす学び合いのある授業の研究～

①学校の概要 (平成25年5月1日現在)

・児童生徒数 375名 ・学級数 14学級 ・教職員数 31名

②取組を始めた経緯

全国学力・学習状況調査や岡山県学力・学習状況調査の結果から、まず基礎学力の充実を図る必要性があると確認できた。その中でも特に算数科について本校の子ども達に課題が見られるため、学校全体で取り組むこととなった。

③取組の実施体制

校内研究のテーマに授業改善による学力向上を設定し、研究部から方針を示し、低・中・高学年のブロックを中心に授業を踏まえて検証を行っている。

④学力向上に向けた具体的な取組

- 「高小スタンダード」を作成し、学校全体で共有する学びの規準を策定した。また年度末には見直しをし、付加修正を行っている。
- 「家庭学習の手引き」(保護者用・児童用)を作成し、配布して啓発を図る。
- 水～金の朝の時間にモジュールタイム(15分)を確保し、基礎学力の向上や授業の補填として運用している。
- よりよい授業を目指して、ワークショップ型の研究協議を取り入れ、全体会で出た課題についての改善策を探るようにしている。
- 算数の意識アンケート、知能検査、アセスメントシートなどの結果から個人への支援の方法を考え、レベルアップを図る。
- 思考、判断、表現の表出の形として「説明力」をあげ、授業の中で小グループや全体の学び合いで伸ばしていけるような授業を考えていく。

⑤取組の成果と課題

○成果

- ・「高小スタンダード」の実施により、自分たちの授業の見直しを図るとともに、問題解決的な学習への転換を意識することができている。
- ・家庭学習に対する学校側の考えが共通理解できた。
- ・モジュールタイムを有効に活用することができはじめた。

○課題

- ・各教科の中にどのように問題解決的な学習を浸透させていくか。
- ・学び合いにおける有効な手立てのあり方。

⑥取組の継続・発展の要因

- 本校における課題が明確になっていて、そのことに対して教職員が必要感を感じている。
- 学力向上を目指して3年計画を立てて実施している。（平成25年度は3年目）
- 「高小スタンダード」を校内研修の一環として見直しを行うことで自分たちのものとなっている。

⑦管理職・中核教員等のアクション

- 管理職は、各学年部での公開授業を参観し、指導助言を行う。積極的に各学級の支援に入り、児童の実態を把握する。
- 指導教諭は、校内研究推進の中心的な役割を担い、算数科におけるアンケートや学力学習状況調査の結果などをとりまとめ、教職員全体で実態や改善策を考える場を提供する。

⑧資料・写真等

3人での学び合いの様子



ワークショップ形式による研究協議

